

# 5月10日に生誕500年祭

上泉自治会館と桂萱中体育館で「生誕500年祭」を5月10日(土)に開催。駐車場に限りがあるため、なるべく公共交通機関をご利用ください。

問い合わせは **上泉伊勢守顕彰・生誕500年祭実行委員会事務局 ☎269-2436**  
**桂萱公民館 ☎261-0111**

■銅像除幕式・獅子舞奉納	時間＝午前11時15分～正午 会場＝上泉自治会館
■記念式典・講演と演武	時間＝午後1時30分～4時 会場＝桂萱中体育館 用意する物＝スリッパ

綱は新陰流兵法をさらに広めたいという気持ちがあり、それを断りました。他家に仕えないことを条件に、武田信玄から新陰流を広める旅に出ることを許された信綱は、神後伊豆正田豊五郎ら連れて京に向けて、新たな旅立ちをしました。50歳代のころだと推定されています。

## 偉大な「剣士」上泉伊勢守信綱

1564年3月、信綱は室町御所大書院の庭で、将軍・足利義輝の前で九目藏人佐を相手に上覧試合をしています。この技に驚嘆した義輝は、最大級の賛辞を込めた感状を贈りました。「上泉ノ兵法ハ古今ニ比類無ク天下トイウベシ。並ビニ丸目ノ打太刀コレモタ天下之重宝者トスベキ也」と、書かれています。また、1570年6月、正親町天皇の模範試合天覧という大変な名誉を受け、御前机を拝領されたこと伝えられています。そして、宮中へ上がるのが許される位、従四位下を賜りました。それまでの位、従五位



正親町天皇から拝領されたと伝えられる御前机（西林寺蔵）

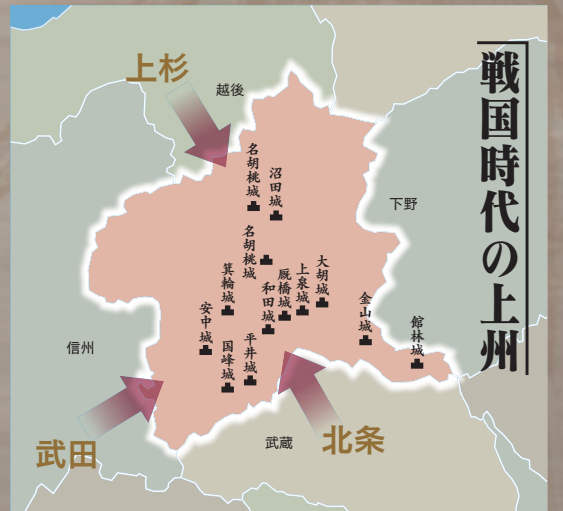
れた墓碑があります。西林寺の墓に眠っているのは信綱もしくはその子秀胤の墓と言われている。い伝えられ、この西林寺には、今も剣の道を志す人が、その上達を祈るために、墓の前で合掌する姿も多く見られます。

## 生誕500年で地域づくり

新陰流を創出し、剣聖と呼ばれた信綱を地域文化の振興に役立てるために、生誕500年祭実行委員会を発足。この会は、上泉伊勢守信綱の生地である上泉町の「上泉町実行委員会」と広域にわたる顕彰活動を実施する「上泉伊勢守顕彰研究会」の2つの組織で成り立っています。3年前からのぼり旗の作成をはじめ、シンポジウムや講演会、柳生の里を巡る旅、剣聖の里史跡マップ、ホームページを作成するなどさまざまな活動を行っています。同町桂萱公民館の図書室には信綱に関する深い本を集めたコーナーも設置。また、芳賀地区でも、信綱の墓所があるとされる西林寺へ行く歩け歩け大会を開催し、信綱の生誕500年を盛り上げています。



西林寺にある墓



## 戦国時代の上州

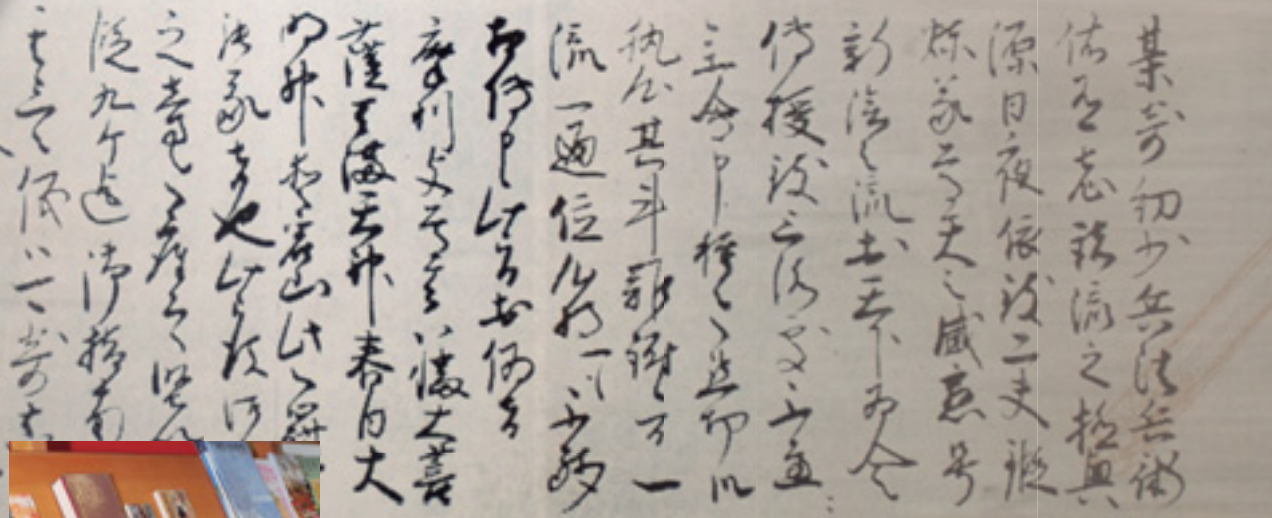
下から一気に4ランクも上がりました。同時期に織田信長、足利将軍が従四位下であったことを考えると、いかに信綱の剣技と人間性が優れていたかが分かります。

## 柳生家に伝承した新陰流

信綱は箕輪城落城後、門人を連れ、大和の宝蔵院胤栄を訪ねると奈良から柳生宗厳(石舟斎)35歳も駆け付けました。3日にわたる3度の試合に手もなく敗れた宗厳。しかし、信綱は、宗厳の熱心さと優れた素質を見込み、「新陰流兵法目録」4巻を授け新陰流のすべてを宗厳に伝えました。これが「影目録」と言われるもので、映画や小説でさまざまな形で取り上げられています。なぜ、新陰流兵法目録が影目録と呼ばれるようになったのか。それは、巻物の表紙の文字「新陰流」の「陰」の一字が「影」に書き直され、裁相の絵図が描かれているからだだとされています。信綱の新陰流兵法目録4巻の説明最後は「学ぶ者努力せよ、努力せよ」の言葉で締めくくられています。その後、剣技は柳生家代々の宗家らによって時代に対応し発展。信綱の教えをまとめたものは、宗厳が書いた「新陰流截相口伝書事」として、柳生家に保存され、現在、柳生新陰流兵法宗家、第22世宗家の柳生耕一さんへと引き継がれています。

## 剣聖ゆかりの西林寺

信綱の没年とその場所についてはいろいろな説がありますが、上泉文書には小田原で1582年に没したとありますが定かではありません。しかし、上泉町の西林寺には、「開基禅室玄参」と刻ま



桂萱公民館図書室



芳賀地区歩け歩け大会（西林寺）

## まちの活性化を目指す

「生誕500年祭は、みんなが心に残る記念事業にしたいですね。大切なのは、この節目以降も顕彰活動を続けること。この祭りで地域づくりのきっかけとなればありがたい」と、意気込みを語る。



上泉町自治会長で上泉伊勢守顕彰・生誕500年祭実行委員会会長でもある渡辺善衛さん

上泉伊勢守信綱が考案した袋竹刀。竹の上半分を8から16に割って革袋に入れた竹刀。叩かれても負傷することがないため、思っ存分打ち込むことができる。それまでは木刀を使い「寸止め」によるけいこしかできませんでしたが、この袋竹刀は怪我をしたり、命を落とすことがなく、剣術の向上に役立ちました。